

友好合作都市 中国厦门市の ニイハオ!

第5期宜野湾市海外留学生
池宮城 香 ~その四~



▲ 元宵節の飾りちょうちん



▲ 浴衣を着て踊る学生

大家好!(みなさん、こんにちは)今回は「元宵節」と文化祭についてお伝えしたいと思います。

旧暦の二月十五日、一年で最初の満月の日は「元宵節」です。場所によって異なりませんが、南では「湯圓」という白玉に甘い餡が入ったようなものを食べる習慣があります。そして夜は巨大な飾りちょうちんのお祭りに出かけます。ところで今年の中国の干支(えと)をご存知でしょうか? ヒントは写真の中に・・・そうですね! 中国はイノシシ年ではなくブタ年です。ちなみにブタ年に生まれるとお金に恵まれるそうです。もちろん会場にはブタのちょうちんも飾られていますので、皆様の健康と幸せと金運を祈って写真を撮ってきました。とても中国らしい華やかなお祭りで、楽しい夜を過ごしました。

先日、廈門理工学院(私が留学している大学です)の文化祭がありました。学生達が寿司を作り、浴衣を着たりして日本の

文化を紹介していました。竹取物語や詩の朗読、茶道、どれもすばらしかったのですが、人気があったのは「ドラえもん」の最終話という劇でした。日本の文化を理解し、二生懸命表現する学生の姿には強く胸を打たれました。

慣れない生活に戸惑うこともありましたが、先生や学生、たくさんの方々の支えられてあつという間に一年が過ぎました。今回が廈門からの最後の報告になります。一年間、私の拙い文をお読みいただきありがとうございます。市民の皆様にも心より感謝申し上げます。宜野湾市と廈門市の交流が、両国の絆をさらに深めるものとなり続けますように。最後に、私が一番好きな中国語の挨拶を。「さようなら」と少し寂しい気持ちが残りますが、新たな出発と、新しい関係の始まりという気がする不思議な一言です。それでは「再見」!

茶

ぐわーゆんだく 40

「戦後」の果て

日本政府がポツダム宣言を受諾し、無条件降伏した九四五(昭和二〇)年八月十五日、沖縄では仮沖縄諮詢会が召集されました。そのなかで、米軍政府のムーレー大佐は、「戦争遂行上の必要は(中略)住民を収容するには狭隘(土地が狭いこと)にして、肥沃ならず、且つ充分なる居住施設なき区域に移転することを余儀なくした。この事態に關連して起る問題こそ軍政府及び住民の今後直面する問題の主要なるものである」と、声明しました。事実、宜野湾市においても、沖縄戦のさなかに普天間飛行場が建設され、戦争を生き残った人びとは、此の方周辺の限られた土地に生活することを余儀なくされてきました。

二〇〇四(平成十六)年八月十三日、普天間飛行場を飛び立った米軍ヘリが沖縄国際大学に墜落・炎上しました。この戦場さながらの光景は、その五十九

年前、ムーレーがいみじくも声明した「この事態に關連して起る問題」の帰結であり、五十九年間にわたって蓄積された「戦後」の果てと言えるのではないだろうか。

幾重にも積み重ねられた歴史の地層を丁寧に掘り起こし、記録していく。それが「宜野湾市史」に課せられた責務であると思うのです。



2004(平成16)年9月 ヘリ炎上後の沖国大校舎

☆「宜野湾市史」への問合せ
教育委員会文化課
098-931-4433